梅若会定式能

令和三年十月十七日(日)十三時開演（十二時開場）

舞囃子
唐船　会田　昇

狂言
鈍太郎　三宅近成

能
通小町　松山隆雄
雨夜之伝　**松山隆之**

写真提供：吉越スタジオ

会場　梅若能楽学院会館
チケット　自由席　四千円
正面指定席料別途　千円
（正面指定席申込期間　公演一週間前まで）

申し込み　問い合わせ
TEL　〇三-三三六三-七七四八
FAX　〇三-三三六三-七七四九

https://umewaka.org

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

梅若会定式能

令和三年十月十七日（日）　十三時開演

舞囃子
唐船　会田　昇
柿原弘和　姥浦理紗
幸　正昭　栗林祐輔

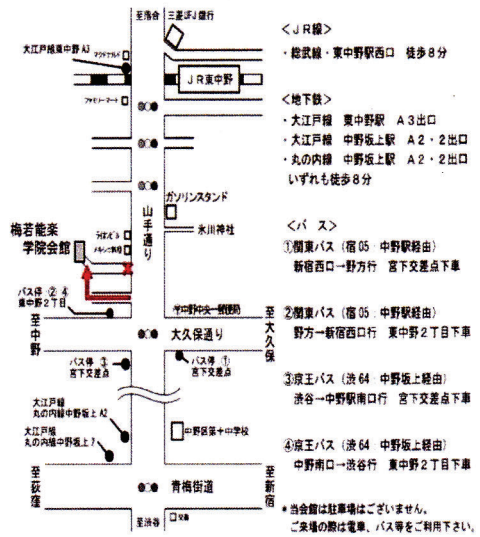
仕舞
小袖曽我　伶以野陽子
高橋栄子

狂言
鈍太郎　三宅近成
三宅右矩
高澤祐介

能
通小町　雨夜之伝
松山隆之
松山隆雄
工藤和哉
柿原弘和
幸　正昭　栗林祐輔

『通小町』
修行僧のもとへ毎日木の実、爪木を運んでくる里の女がいた。今日もやってきた里女に素性を尋ねると小野小町の和歌の下の句を詠んで、自分は市原野に住んでいる姥だと言って姿を消す。僧は小野小町の亡霊だと思い、小町が死んだとされる市原野に行き、回向をすると小町の亡霊が現れた。続いて深草少将の怨霊が現れ、夜毎小町を慕って通ったが、九十九日目にして、無念の死を遂げたことを、再現してみせる。その後、小町も少将も僧の回向によって成仏して消えていく。

【観能のチケットとお願い】
◆自由席 4000 円　正面指定席料別途 1000 円(指定席申込期間公演 1 週間前)
◆チケットは梅若会ホームページ及びお電話、またはファックスにて、郵便番号、ご住所、お名前、ご連絡先電話番号、ご希望枚数をお書きの上お申し込み下さい。
(https://umewaka.org TEL03－3363－7748　FAX03－3363－7749)
◆都合により出演者、曲目等に変更のある場合がございます。
◆当日のクローク(荷物のお預かり)は閉鎖させて戴きます。
◆梅若会の感染予防対策
当館は公演前に全館ウイルス除菌及び消毒を行います。
上演中にも常に換気を行います。
◆観能に際してのお願い
入館時における検温・消毒、個人情報の提出にご協力下さい。
他のお客様へのご配慮として、マスク等の着用をお願い申し上げます。
当日は館内における飲食はご遠慮下さいますようお願い申し上げます。
ご協力戴けない場合入場をお断り申し上げる場合がございます。
お客様ご自身の健康管理をよろしくお願い申し上げます。
※個人情報はチケットの裏面にご記入頂きます。



＊従来の入口が工事中のため矢印の通り迂回してのご入館をお願い致します。

〒164-0003　東京都中野区東中野 2－6－14
公益財団法人 梅若会（梅若能楽学院会館）
TEL：03-3363-7748　FAX：03-3363-7749

梅若会定式能　令和３年10月17日（日）

能『通小町』雨夜之伝（あまよのでん）

深草少将の百夜（ももよがよ）通いを幽霊物に脚色した曲

―恋を欺かれた男の忍耐強い執念と、それから逃れて成仏しようとする小町―

八瀬の山里に一夜を宿る僧は里女（毎日、果実爪木を捧げる）に果実の数々を物語るように言うと、女は故事などを面白く引用して語ったのち、自分の名をほのめかし回向を頼む。
僧は、女が小野小町と察し、市原野に行き回向していると女は弔いを喜び「戒を授けて欲しい」と言って現れる。その時、痩男の面に黒頭を振り乱した深草少将ノ霊が幕の中から「女には戒を授けないように」と言い妨げようとする。女は男の亡霊が今もなお自分に纏いつくのを嘆く。一方男は自分を置いて女一人が成仏することを嘆き、女の袂をとって引き止める。
僧は二人に懺悔の為、百夜通いを再現してみなさいと言う。
―百夜通いは小町が少将に与えた試練である―
少将は小町を思うあまりに、小町のもとへ雪の夜は袖に積もった雪を払いながら。又、雨の夜は自分の涙にも濡れながら百夜通いの信念で毎晩通った。（イロエ）
数えてみるとそれも九十九夜となった。あと一夜である。
嬉しい。急いで行こう。笠、蓑では見苦しいので笠と蓑は捨てて、風折烏帽子と狩衣と指貫に着替えて行こう。と気を奮い起こします。がその時、命が尽きてしまったのです。
僧の回向により、心の迷いから覚めた少将は多くの罪が消えて、小町と共に成仏するのでした。

能　「通小町」	シテ（深草少将ノ怨霊）	松山　隆雄
	ツレ（里女化身・小町ノ霊）	松山　隆之
	ワキ（僧）	工藤　和哉

※共演（シテ・隆雄、　ツレ・隆之）いたします

□小書き：雨夜之伝
・両シテになる。
・ツレは中入があり、前場：中年の女性（深井の面・色無し唐織）
　　後場：小野小町（小面・色入り唐織）となる。
・深草少将は狩衣に指貫（小書きナシでは大口に水衣）
　幕の内より謡い、異次元の世界より出てくるように登場する。
　イロエでは特殊演出があり、雨音を表す囃子が入り、シテは小雨の降る闇夜の中、笠を持って立ち廻る。
・終盤には小町と少将が共に合掌する。

他に	舞囃子	「唐船」	会田　昇
	仕舞	「小袖曽我」	高橋　栄子、伶以野　陽子
	狂言	「鈍太郎」	三宅　近成